



地域研究集会

2024 年度九州沖縄地区合同シンポジウム
九州・沖縄沿岸における陸域－外洋物質動態と生物過程

日 時：2024 年 12 月 6 日（金） 10:00～17:00

会 場：大分市金池南 1-5-1 J:COM ホルトホール大分

共 催：水産海洋学会，日本海洋学会沿岸海洋研究会，日本海洋学会西南支部

コンピーナー：西垣 肇（大分大理工）・千手智晴（九大応力研）

参加申込：参加申込は不要です。＊対面のみ開催

問合せ先：gaki@oita-u.ac.jp（西垣）

挨拶：木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長） 10:00～10:05

中野俊也（日本海洋学会西南支部長） 10:05～10:10

趣旨説明：西垣 肇（大分大理工） 10:10～10:15

座長：千手智晴（九大応力研）

1. 陸海一体型モデルについて 10:15～10:40

木田新一郎（九大応力研）

2. マクロ沿岸海洋学「沿岸域と黒潮流域の双方向物質輸送と生物生産への影響評価」続報 10:40～11:05

遠藤貴洋（九大応力研）・郭 新宇（愛媛大沿環研セ）・小針 統（鹿大水）・張 勁（富山大理）・
仁科文子（鹿大水）・吉江直樹（愛媛大先端研）・中村啓彦（鹿大水）・森本昭彦（愛媛大沿環研セ）・
木田新一郎（九大応力研）・滝川哲太郎（長大院水環）

3. 豊後水道大分県沿岸における水温・塩分の係留観測 11:05～11:30

西垣 肇（大分大）・上山竜輝（東北大院理）・大塚紗輝衣（大分大）・美山 透（JAMSTEC）・
吉江直樹（愛媛大先端研）

4. 別府湾における生物付着を考慮したマイクロプラスチック沈降モデルの開発 11:30～11:55

江島雅俊・笠毛健生・日向博文（愛媛大院理工）

（休憩） 11:55～13:30

座長：西垣 肇（大分大理工）

5. 西部瀬戸内海豊後水道における沿岸酸性化の時空間変動 13:30～13:55

吉江直樹（愛媛大先端研）・原 祐輔・郭 新宇（愛媛大沿環研セ）

6. 粒子追跡モデルによる橘湾・長崎県西海岸への赤潮到達予測 13:55～14:20

滝川哲太郎（長崎大）・山砥稔文・宮崎隆徳・鎌田正幸・山名涼太・高木信夫（長崎県水試）・
広瀬直毅（九大応力研）

7. 粒子追跡モデルを用いた対馬海峡におけるヒラマサ孵化海域・仔稚魚輸送経路の推定 14:20～14:45

乾 翔駿・滝川哲太郎・阪倉良孝・河邊 玲・青島 隆・内田 淳・眞角 聡・樋渡 萌（長崎大）・
広瀬直毅（九大応力研）



(休憩)

14:45～14:55

8. 北部東シナ海陸棚斜面における黒潮中層水の湧昇スポット 14:55～15:20
入口菜名・中村啓彦・仁科文子・堤 英輔 (鹿大水産)・喬 煜翔 (鹿大水産(現東北大理))
9. 夏季大隅半島南岸における大隅分枝流と沿岸冷水の係留観測 15:20～15:45
堤 英輔・岩田悠里・中村啓彦・仁科文子 (鹿大水産)

【総合討論】

進行 西垣 肇 (大分大理工)・千手智晴 (九大応力研) 15:45～16:45

閉会の言葉

16:45～17:00

開催趣旨：九州・沖縄周辺海域には、黒潮の影響を強く受ける海域がある一方で、有明海や八代海、瀬戸内海沿岸域のように、陸域から流入する河川水等が重要な役割を果たす海域が存在する。九州・沖縄地区の多様な生物相は、このような変化に富んだ環境によって支えられている。陸域－外洋間の物質動態の解明は、沿岸域の環境だけでなく外洋域にとっても重要な課題であり、最近では全球的な炭素循環の評価や漂着ゴミ問題の面からも注目されている。昨年度のシンポジウムでは、海と陸域、河川の結合システムとしての沿岸域を俯瞰したが、本年度は視点をより沖合にまで広げ、黒潮暖水波及のような外洋域から沿岸域への影響に加えて、内湾・沿岸域と外洋域との双方向の物質輸送、そこに生息する生物への影響などについて議論したい。最先端の課題から地域特有の課題までを含む、多様な研究事例の交流が、新たな研究の進展につながることを期待する。